



令和7年1月 教育相談部&社会科

パレスチナ問題について考える

～イスラエルでの紛争～

2023年10月7日、イスラエルにおいてイスラム過激派組織ハマスによる襲撃がありました。この時に約1200人が命を落とし、200人以上のイスラエル人がハマスによって誘拐されました。これに対してイスラエル政府が報復措置をとったことにより、さらに多くの犠牲者が生まれ、今もなお紛争が続いています。

～どのような人たちが争っているのか～



～なぜ争っているのか～

きっかけは権力者による差別や迫害です。信仰している神や考え方の違いによって故郷を奪われ、世界各地で長らく苦しめられたユダヤ人は、国連によって独立国家イスラエルの建国が承認されました。しかし、その背景には欧米列強の思惑が複雑に絡んでおり、イスラエルはアラブ人の居住地域を侵す形で強引に建国されました。その後4度の中東戦争と数えきれない程のテロ行為が続き、現在イスラエルに居住するアラブ人は、「ガザ地区」と「ヨルダン川西岸地区」の2か所に追いやられてしまいました。ハマスはガザ地区を実行支配している武装組織です。



～『アハメドくんのいのちのリレー』～

2年生の英語の授業で取り扱われた物語を紹介します。



物語のさわり

ヨルダン川西岸地区に住む12歳の少年アハメド君は、ある日突然イスラエル兵による銃撃によって脳死状態になった。アハメド君の父は、アハメド君の心臓や肺などの臓器を敵国に住む6人のイスラエル人に移植することを決断した。

医師でこの物語の著者の鎌田さんは、新聞記事でアハメド君を知り、アハメド君の父親に会いに行きました。歴史的因縁のあるパレスチナの地で起きた“いのちのリレー”的物語。

3000年も昔から争ってきたユダヤ人とアラブ人。アハメド君は、ヨルダン川西岸地区にある難民キャンプで暮らすアラブ人でした。銃撃したイスラエル兵はユダヤ人。イスラエル軍当局によると、「イスラエル兵は、武装したテロ組織の男に向けて発砲。しかしその後確認したところ相手は12歳の少年で、オモチャの銃を持っていたために誤射した。」とのことでした。アハメド君は、平和を愛し、たとえオモチャでも銃を手にすることはなかったそうです。現場を見ていた住民は、見間違うはずのない距離で2発の銃弾を浴びせたと話していたそうです。

息子を失った悲しみに加え、イスラエル兵（ユダヤ人）に対する父親の怒りや悲しみは想像を絶するものだったはずです。それにもかかわらず、息子の臓器でイスラエル人を救おうとした決断には、どのような思いがあったのでしょうか。みなさんもこの物語にぜひ想いを馳せてみてください。



写真は、著者（一番右）がアハメド君の父親（一番左）と移植で救われた少女（浴衣の子）を訪ねた時のものです。

みなさんには、
相手を“許す”心の余裕はありますか？
痛みや困難を乗り越える勇気はありますか？
「お互い様」や「おかげ様」が人を優しくします。

